

平成 30 年 4 月の解説（週間天気予報）

【4月の天候状況】

上旬は、北日本付近を低気圧や前線が短い周期で通過したため、北日本と東日本日本海側は曇りや雨または雪の日が多くなりました。東日本太平洋側と西日本および沖縄・奄美は、高気圧に覆われて晴れの日が多くなりましたが、6日から7日にかけては低気圧や前線が日本付近を通過したため、全国的に雨が降りました。また、2日から4日は南高北低の気圧配置となって南からの暖かい空気が流れ込み、東・西日本を中心に気温がかなり高くなりました。

中旬は、低気圧と高気圧が交互に日本付近を通過したため、北日本から西日本では天気が数日の周期で変わりました。14日から15日にかけては低気圧が発達しながら日本海から北日本へ進んだ影響で、全国的に天気が崩れ、大雨や大荒れとなった所もありました。沖縄・奄美は、前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、18日から20日にかけては高気圧に覆われて晴れました。

下旬は、北日本から西日本では、南からの暖かい空気が流れ込みやすく、気温がかなり高くなりました。24日から25日にかけては低気圧が発達しながら日本付近を通過したため、全国的に雨が降り、大雨となった所もありました。

月平均気温は、東・西日本でかなり高く、北日本で高く、沖縄・奄美は平年並でした。月降水量は、東日本日本海側でかなり多く、北・東日本太平洋側と西日本では平年並だった一方、北日本日本海側と沖縄・奄美は少なくなりました。月間日照時間は、西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側は多く、北日本と東日本日本海側は平年並でした。

【4月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、例年値^{（注）}より12ポイント高い84%でした。各地方の適中率は、すべての地方で例年値を上回り、九州北部地方を除く各地方では例年値よりも10～15ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差（2～7日目の平均）は、全国平均では例年値より0.5小さい2.3で、すべての地方で例年値を下回りました。最低気温の予報誤差（2～7日目の平均）は、全国平均では例年値より0.5小さい1.7で、すべての地方で例年値を下回りました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6月の週間天気予報の利用にあたって】

例年、6月は、南西諸島付近に停滞していた梅雨前線が次第に北上して、本州付近に停滞することが多くなります。平年では上旬から中旬頃にかけて、西日本、東日本および東北地方で梅雨入りとなり、曇りや雨の日が多くなります。また、オホーツク海高気圧が強まると、梅雨前線は南下し、関東地方以北の太平洋側を中心に冷たい北東の風が吹き込むため気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、日照不足や低温によって農作物の生育不良などが起こります。

週間天気予報からわかる向こう1週間の天気や気温の傾向を、農作物管理等に役立ててください。